

む  
無

ゆう  
憂

じゆ  
樹

※題字は前住職の筆

発行

浄土真宗 本願寺派(お西)

圓融山 信行寺

〒662-0921 西宮市用海町1-22

TEL 0798-22-2282



えごうろ  
写真：柄香炉（手前）

持ち運びするために柄が取り付けられた香炉の一種。主に仏さまに礼拝するときに用いる仏具。

#### お寺の掲示板

幸せになったから 感謝するのではなく

感謝する人が 幸せなんだ

# 親鸞聖人750回大遠忌法要 信行寺第30世住職継職奉告法要



内陣のお荘厳



いよいよ始まります



入堂する新住職と前住職



雅楽の先導でお練り



恩師・浅田恵真和上の法話



近隣のお寺さま

# 平成 27 年 10 月 10 日 (土)

## 勤修 於 信行寺本堂



前住職と前坊守



木谷総代よりご挨拶



研修堂でもお聴聞



満堂となった本堂



ご協力くださった役員の皆さま、  
有難うございました！



テントでも一緒にお勤め



## 前任職 退任挨拶

第二九世住職 四夷教修し い きょう しゅう

このたび新住職の就任によりまして、私は退任させて頂くことになりました。

二十一歳で就任して約六十四年、学も徳もない私を、あたたかく支えて下さった御門徒の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

戦災と大震災ですべての伽藍を失いまして、戦前に較ぶべくもない小さなお寺になりましたが、開基の四夷新左衛門浄専以来、代々大切に伝えて参りました美しい御本尊をお守り出来たことを、有難くうれしく思っています。

今後は暫くは新住職を補佐しつつ、読書と浄土三部経のお写経をしながら、この御本尊のお傍でひっそりと余生を過したいと願っております。

どうぞ皆様もお体お大切にお元気でいて下さい。本当にありがとうございました。 合掌



## 新住職 就任挨拶

第三十世住職 四夷法頭し い ほう けん

昨年十月十日、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要並びに第三十世住職継職奉告法要を勤修させていただきました。その際、御門徒と関係者の皆さま方には多大なご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げますと共に、前住職と前坊守の長年にわたるご教導に深く感謝しております。

圓融山信行寺は、明徳二年（一三九一）に浄土真宗本願寺派（お西）の寺院として開基されて以来、六百二十年以上もの長い間にわたり、多くの方々によって護持されてきたお念仏の道場です。その法統を継承し、次世代へとご法義を繋いでいくことが私の責務であると思っています。

これまでの長い歴史において、動乱の時代が何度もあったと思われます。しかし、現代ほど人の心が荒廃した時代はなかったのではないのでしょうか。科学技術の発達により、私たちの生活は驚くほど便利になりました。その反面、自己の欲望は肥大化し、近頃は凶悪な事件等、人間のあまりにも身勝手な行動を報道で目にする機会も少なくありません。

親鸞聖人のご自身のお手紙で、「世の中安穩なれ、仏法ひろまれ」とお示しになられるように、混迷の現代だからこそ真実の宗教の必要性を感じます。

これから当山住職として、前住職の思いを受け継ぎ、信行寺が御門徒の皆さま方にとって心の依りどころであり続けられるよう、能う限り努力してまいります。まだまだ若輩かつ、浅学非才のこの身です。今後とも、どうか皆さま方のお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

合 掌

## ひとくち法話

## 「そのままのお救い」

浄土真宗とは、阿弥陀如来によるお救いのご法義です。阿弥陀さまは、「南無阿弥陀仏」と声の仏さまとなり、私の元へ至り届き、わが命が尽きる時、お悟りのお浄土へと導いて下さいます。

私たちの先輩方は、阿弥陀さまのお救いを、「そのままのお救い」と表現し、慶んでは、「そのままのお救い」ではなく、「それは一体何を意味する言葉なのでしょう。」

例えば、他所のお宅へ行き、お茶をいただくします。一服し、その湯呑みを自らで下げようとすると、家の方が、

「そのままが良いので、置いてください。」と仰います。では何故「そのままが良い」

なのでしょう。それは家の方が、私が飲んだ湯呑みを下げて、洗って、元にあった場所へ片付けて下さるからです。つまり、「そのまま」という言葉の裏側には、

必ずどなたかのご苦勞があるのです。「そのままが良い」というお言葉に対して、こちらのする仕事は、「有難うございます」と、ただお礼を申し上げるばかりです。

浄土真宗のご法義が、「そのままのお救い」といわれるのは、その裏側に阿弥陀

さまのご苦勞があります。

弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとへに親鸞一人がためなりけり。されば、それほどの業をもちける身にありけるを、たすけんとおぼしめし、たちける本願のかたじけなさよ。

（『歎異抄』後序）

阿弥陀さまは、「五劫」という気が遠くなるほどの時間をかけ、一切衆生を救うにはどうすれば良いか思惟されました。そして、厳しい行を積むことができない私に代わり、「兆載永劫」のご修行をされ、「南無阿弥陀仏」の仏さまと成って下さいました。親鸞聖人は、その阿弥陀さまのご苦勞を、「親鸞一人がためなりけり」と慶ばれ、同時に、「五劫思惟」の時間は「それほど業をもちける身」であると、自身の罪業の深さを慚愧されたのでありました。

阿弥陀さまの救いの目当てである「一切衆生」とは、他ならぬ「この私」のことです。いつか必ず命を終えていくこの私、そして自分の都合でしか物事を考えず、地獄一定であるこの私を、「必ず救う」と立ち上がって下さったのが阿弥陀さま

です。すね」という声を聞くことがあります。その通りです。

しかし、その裏側には、阿弥陀さまの途方もないご苦勞があることを忘れてはなりません。親鸞聖人は、その阿弥陀さまにお礼を申しながら九十年の人生を歩きました。

如来大悲の恩徳は 身を粉にしても報すべし 師主知識の恩徳も 骨を砕きても謝すべし

（『恩徳讃』）

と、聖人が仰せのように、「あなたをそのまま救う」という阿弥陀さまのお慈悲にお心に触れる時、私の仕事はただ、「南無阿弥陀仏」と感謝のお念仏を申し上げるだけです。浄土真宗のお念仏が「報恩行」といわれるのは、このような所以です。

今日も一日、生かされている命に感謝し、阿弥陀さまのお仏壇にお礼詣りをさせていただきますように。

（文責・住職）



## 仏事相談 Q &amp; A ③

## 宗教の異なる家族が亡くなったら

家族の間で異なる宗教を信じていたり、あるいは「無宗教」という人がいる場合、その方が亡くなれば、葬儀はどうすればよいでしょうか。

一般的に言って、避けて考えられないことは「故人の意志」だと思います。まして、生前「私が死んだら、こうしてくれ」などと遺言めいたことを言われておれば、なおさらでしょう。そこで「葬儀は故人の宗教、信条に基づいて決める」と判断される方が多いようです。

しかし、こんな話があります。「無宗教」を自認し「葬式無用論」を説いていたある大学教授が、思いかけぬ我が子の死に出会いました。その途端、これまで盛んに主張していた説はどこかへ吹っ飛び、涙ながらに「盛大な葬儀をしてくれ」と頼んだと言います。

つまり、亡き人の死を縁に営まれる葬儀というのは、後に残った遺族、縁者が亡き人を悼み、その遺徳を偲ばずにはおれないという心情から行われる儀式であるわけです。

「死を悼み、遺徳を偲ぶ」ことは、自らの信仰とは切り離し得ない心のはたらきです。たとえ亡き人が無宗教でも、また他の宗教を信じていても、「私」が亡き人を偲ぶ時、私の宗教観でしか偲べないのではないのでしょうか。

そう考えると、葬儀は遺族の心情（信仰）にもっともふさわしい宗教で行われるのが本筋ではないかと思うのです（最終的には代表者である喪主が決める）。

「それでは故人の遺志はどうなるのか」といわれそうです。が、しかしここではつきりしておきたいことは、その「意思」が「自分のこと（後の世話）を頼む」と言っているのか、または「後に残った者がよく生きるための願い」であるのかを聞き分ける必要があるということです。もし前者ならば、時には遺族の心を束縛しかねません。

要は、死んでからのことを頼むのではなく、今生きている時に、大切な心（信仰）を伝えておくことです。お念仏を子孫に伝えるには、今においてほかはありません。

（末本弘然著『浄土真宗 新仏事のイロハ』より抜粋）

## 阪神・淡路大震災から二十一年：

大震災から今年で二十一年が経過しました。今や神戸市民の約四割の方が「震災を知らない」といいます。あの日の事を風化させぬよう、語り継いでいくことが大切だと思います。

信行寺では一月十七日、読経の後、震災発生の五時四十六分に追悼の鐘を撞きました。

また、四月十四日には熊本・大分を中心とする地震が起こりました。被災にあわれた方々に謹んでお見舞い申し上げると共に、被災地の日でも早い復興を念じ上げるばかりです。



# 現代に響く親鸞聖人の教え

はじめて仏教・浄土真宗を学ぶ人へ



65歳からの仏教

本願寺出版社 編  
四六判/176頁 本体1,200円+税



13歳からの仏教

龍谷総合学園 編  
四六判/192頁 本体1,200円+税



浄土真宗 はじめの一步

森田真円/釈徹宗  
B5判/76頁 本体1,200円+税



高校生からの仏教入門

小池秀章  
A5判/220頁 本体1,000円+税



新・仏事のイロハ

末本弘然  
B6判/168頁 本体600円+税

新刊



親鸞聖人—その教えと生涯に学ぶ—

千歳兼隆/徳永道雄  
四六判/238頁 本体1,000円+税



大きな字の歎異抄

原文・現代語訳 付 梯貴画 解説  
A5判/196頁 本体750円+税



漫画 親鸞さま

岡橋徹栄 作/広中健次 画  
A5判/228頁 本体1,000円+税



浄土真宗必携 み教えと歩む

浄土真宗必携編集委員会 編  
B6判/416頁 本体600円+税



拝読 浄土真宗のみ教え

『拝読浄土真宗のみ教え』編集委員会 編  
A5判/54頁 本体300円+税

【お問い合わせ】 浄土真宗本願寺派 本願寺出版社 TEL 075-371-4171

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル FAX075-341-7753

## 平成二十八年度 年忌表

|         |          |    |
|---------|----------|----|
| 一周忌     | ： 平成二十七年 | 往生 |
| 三回忌     | ： 平成二十六年 | 往生 |
| 七回忌     | ： 平成二十二年 | 往生 |
| 十三回忌    | ： 平成十六年  | 往生 |
| 十七回忌    | ： 平成十二年  | 往生 |
| (二十三回忌) | ： 平成六年   | 往生 |
| 二十五回忌   | ： 平成四年   | 往生 |
| (二十七回忌) | ： 平成二年   | 往生 |
| 三十三回忌   | ： 昭和五十九年 | 往生 |
| 五十回忌    | ： 昭和四十二年 | 往生 |
| 百回忌     | ： 大正六年   | 往生 |

◇過去帳をご確認の上、ご希望の日時は  
お早めにご相談ください。

ご家庭で回覧し、として保存くだされば幸いです。